No.21
2016・12

# ホーモイ通信

高齢社会をよくする下関女性の会
（ホーモイ）
代表　田中隆子
TEL/FAX 083-253-4892
URL: http://www.yg-life.net/homoj/

## Welcome

## 「生野きらきら子ども食堂」は

**地域の子どもたちの健やかな成長を願い、地域全体で支えていきたいとの思いから、毎月、第1・第3の火曜日、17:30 ～ 20:00 に生野町（風の家）でホーモイのメンバーと地域住民・有志で開催しています。**

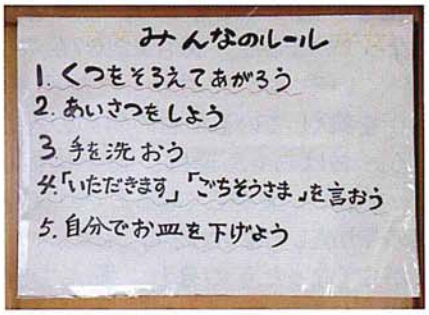
なべ一杯のカレーがなくなりました

▲「いただきます」 ➡「おかわりー」が続出 ➡「いただきました」

▲夏休み最後は雨の合間の「そうめん流し」
「夏休みのよい思い出になった」と嬉しい母子の会話

▲しゃぶしゃぶは途中で追加 嬉しい悲鳴

▲から揚げは大好評



多くの方々にご支援いただいておりますことに感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

フードバンク下関・永野輝己・西尾病院有志・田中耐子
井上建設㈱・米田哲子・高野恒子・大下隆・小林浩子・福井美貴
園田美津江・大西初美・松井久子・首藤悦子・高原祐二　etc

総会記念講演

# 認知症の母から教わったこと

講師：漫画家　岡　野　雄　一

### 父と母

母が施設で過ごした10年、行き来しながら母のことを考えて（漫画に描くことも）机に向かう日々は今も変わらず、未だに母が居るような気がしています。

母は2年前、暑い盛りに91歳で亡くなり、父は10数年前、大雪の日に亡くなりました。思えば父と母は真逆でした。母は、天草の貧しい農家の10人弟妹の長女で、幼い頃から誰かを背負って畑を手伝う、そんな生活から逃げ出したかったのです。父は内向きな人間で、三菱造船所に勤めて被爆。先妻と子どもも原爆で亡くしてひどく落ち込み、危ないから結婚させようと、遠戚で、一番強い感じの母が選ばれたのです。来てみると、相手は酒癖が悪く、酒と短歌に逃げるという人間でした。

子ども心に、母を叩く父に母ちゃん可哀想だなと感じていました。その病的な部分は次第にひどくなり、僕が16か17歳の時、いきなり包丁を持って「一緒に死んでくれ！」と母を追いかけ、僕と弟が羽交い絞めにして止めたことがありました。ここに居たら自分はおかしくなると思い、上京しました。20歳の時です。

### 坂の街

その後40歳で離婚し、息子を連れて帰郷。父は70歳で、医者の指示で酒を止め、笠智衆に似たいいお爺ちゃんになっていました。母もまだ67歳くらいで、二人はすごく喜び、いやでたまらなかった故郷が全部好きになりました。街を狭くしている左右の斜めの線の下に、小さな港が見える。おばちゃん達は、母が徘徊し始めてから探知機になってくれ、父が亡くなるまでの10年は、本当に4人の家族のやり直しのような時間でした。

父が亡くなった年の暮れ、転んで2カ月入院した母は、受け答えが変になったと言われましたが、進行が遅くて病気とも思わず、5年間一緒に暮らしたのでした。

4年目頃から父が現れ始め、裸足で町を降りた母が道端に座り込み、「父ちゃんが来たとばってん、中に入らず消えたけん追いかけたけど、見つからんと」と言うのです。父に殴られ、裸足で逃げた母が、裸足で父を追いかける。何と皮肉なことかと思いました。

ある寒い日、重度の脳梗塞で右半身が動かなくなった母は、ベッドの柵を握って泣き叫び、顔をくしゃくしゃにして童女のような笑い顔をするようになったのです。

### 豊穣の時

母が入所したグループホームは、小高い丘に建ち、遠く天草の島影が見えました。

初めの5～6年頃、母は可愛い女の子の感じで、よく僕の頭を使える左の手でペタペタ叩き、手が上がらなくなると、額をゴッツンしました。布団の縁を持って、一心に縫う仕草をすることもありました。正月が来るから、父ちゃんと子ども達の服のふせをせねばと。

「さっきまで父ちゃんが居たよ」と、父が度々現れ、「今のみつえさん、天草の少女時代に戻ってますね」と言われました。こういう時が得られただけでも感謝しています。

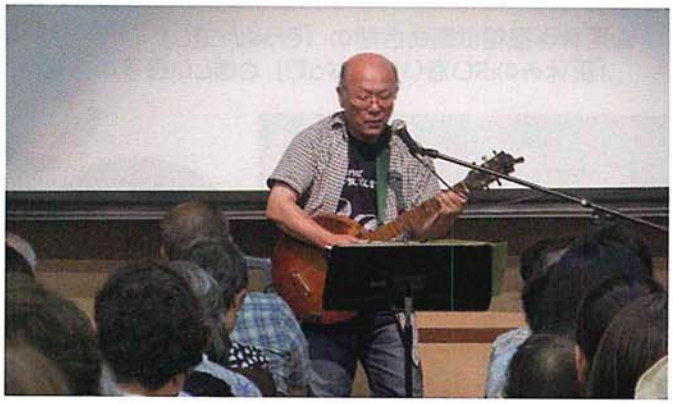
食事が口から取れなくなって34キロと細くなり、胃ろうを勧められて迷った末、1日でも長く生きてほしいと胃ろうを選択し、1年半生きてくれました。

発語の度に喜び、声が出なくなり、息をするのがやっとで、動かなくなり、目も閉じて反応しなくなりました。でも、触ると温かく、瞼の下で目が動くのです。　漫画家の端くれの想像力で、扉の外に立っている父の気配を何度か感じ、“あっ、こういうことなのか”…と。それが父ちゃんと分かるのが認知症になった母なんだと思いました。

ベットの下に鶏がおり、窓の外に天草の小川が流れている。そんな気配を感じながら、体の一部一部が無くなっていくような死の瞬間を、超スローモーションに延ばして見ているような1年半でした。僕にとっては豊穣な、とても豊かな時間でした。

母が、自分を通して父と僕を仲直りさせ、僕の中のトラウマのようなものが、すっかり消えている気がするのです。何か深い思いがしました。

今から歌う歌は、「どんげんでんなる」、これは母に捧げる歌です。「生きとけば、どんげんでんなるとやけん」と言うのが、母の口癖でした。「だから生きとかんばいかんね」って本当に思います。“ボケるとほんと悪かことばかりじゃなかかもしれんね”と思っています。　（大呑　芳子）



市民福祉講座

# 「子ども・家族 marugoto プロジェクト」
# 包摂型家族支援による子どもの貧困対策について

講師：NPO法人抱樸常務　山　田　耕　司

抱樸の山田耕司と申します。

「北九州ホームレス支援機構」の名称で、ホームレス支援を中心に活動していましたが、2013年度より、(困窮世帯の)子どもへの支援も行っています。

2014年に活動や対象者の幅が広がったことから、法人名を「抱樸」に変更しました。

「抱樸」の「樸」とは「原木・荒木」の意味で、「素のままの原木を抱きとめる」ことを表しています。原木や荒木を抱きとめることは、抱きとめる側も傷つくことがありますが、互いに健全に傷を負える社会でもありたいという意味も込めています。

### ホームレス支援～「炊き出し」から、「自立支援」へ

1988年に活動を開始し、2800名の方が自立され、約2000名の方を継続的にサポートしています。

「炊き出し」活動は、12月から2月は毎週金曜日に北九州市の勝山公園で行い、その後、市内全域へのパトロールに行きます。下関市では5～7名に弁当をお配りしています。キリスト教会や有志の方が弁当作りやボランティアを担ってくださっています。

また、下関市竹崎町にある無料低額宿泊施設「抱樸館下関」では、自立支援及び支援付入居施設として（定員）23名の方への支援を行っています。

北九州市・下関市・福岡市・中間市の4つの地域で活動しており、5つの入所施設、有給職員は約100名です。

### ホームレス支援から、生活困窮世帯支援へ

ホームレスには、「食べる物・住む所・仕事がない」＝「ハウスレス（物理的困窮）」と、「家族がいない・相談できる人がいない・孤立している」＝「ホームレス（関係的困窮）」の二つの困窮があります。この二つの困窮は、ホームレスだけではなく、「経済的困窮」と「社会的孤立」の問題として、生活困窮者全般、特に子ども、若者たちにも直面している問題だと感じています。

例えば、2008年のリーマンショック以降、派遣会社の「雇い止め」で住む所（社員寮など）を失った若者のホームレスが増加しました。

### 子どもへの学習支援を入り口にした生活困窮世帯の早期発見を目指す！

2011年より行った若者の就労支援を通して、若者層には高校中退等の低学歴が多く、より早期（小・中学生期）での関わりの必要性や、（ホームレスと異なり）見えにくい生活困窮世帯へどのようにアプローチしていくかなどを議論した中で、子どもへの学習支援が子どもを入口にした生活困窮世帯の早期発見、早期支援につながるのではないかという結論に達しました。

### 抱樸が行う「子ども・家族 marugoto 支援」とは

「子どもの貧困」とは、「子どものいる世帯の貧困」と考えています。そのため「子どもの貧困」に対して「学習支援」と「子ども食堂」だけで解決することは難しいと考えています。子どもだけを支援するのではなく、その家族を支えていかなければ、「子どもの貧困」はなくなりません。

不登校や引きこもりの家庭では、保護者も課題を抱えている場合が多くみられます。「子どもだけ」の個別の対応では、家族全体に対処できないわけです。横断的な marugoto 支援が必要です。

### 子ども・家族 marugoto 支援１０の事業

今年度、以下の10の事業の実施を目指し、活動しています。

①包摂型家族支援
②訪問型相談支援
③個々人（世帯）に合わせた総合的な支援プラン
④総合的カンファレンス
⑤総合評価
⑥学習支援（集合型、訪問型）
⑦子どもの居場所提供と社会参加支援
⑧高校中退防止
⑨子どもを支える地域づくり
⑩施設整備

⑥の生活困窮世帯や生活保護世帯の子どもを対象とした学習支援を実施し、学習意欲、学力の向上を目指すとともに、⑦安心できる居場所づくり、相談相手づくりも目的としています。

また、①②子どもだけでなく家族の相談相手となり、家族の課題解決も目指します。

### まとめに
### ～子どもを支える地域と、ボランティアの組織づくりを～

困窮世帯の課題や、深夜徘徊などの問題のシグナルは、その地域の人がいち早く先に気づきます。

専従職員だけでは限界があります。地域にアンテナを張り、つなげてもらう。地域ボランティアの組織作りが必要になってきます。地域づくりと持続的に支援を続けていくためには、特定の人に負担をかけない、地域におけるライトなボランティア・キーパーソンを増やしていくことが、これから重要となってきます。　（高市　祥子）

# 介護予防のためのサロン

毎月第一土曜日・10:00～14:00

下関市立大学体育館で開催しています。お気軽にお越しください。

笑いヨガ

筋力トレーニング

脳力トレーニング

ストレッチ

筋力トレーニング

リズム体操

アカペラで歌う

フラワーアレンジメント

ミニミニ運動会

豆つかみ

脳力トレーニング

リズム打ち